

南砺幸せなまちづくり創生総合戦略

数値目標及び重要業績評価指標 平成29年度実績 一覧

南砺市まち・ひと・しごと創生総合戦略本部

評価について

評価	基準	数値目標	KPI
A	かなりの効果があった(8割以上)	5	8
B	まずまずの効果があった(7割程度)	2	6
C	少しは効果があった(改善・進展)	3	5
D	まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む)	4	5
E	効果が見込めない(悪化・停滞)	0	0
	合計	14	24

● 上記のうち、内部評価がD以下の指標

【数値目標】

- ・数値目標1-1「年間婚姻数」
- ・数値目標3-1「自治会町内会行事に参加している市民の割合」
- ・数値目標3-2-2「地域資源の利活用」
- ・数値目標4-1-1「年間転入者数」

【KPI】

- ・KPI13「コミュニティビジネス等に取り組む自治会等の数」
- ・KPI16「間伐面積」
- ・KPI20-1「住み続けたいと思う市民の割合」
- ・KPI20-2「南砺市に「誇り」や「愛着」を感じている市民の割合」
- ・KPI20-3「公共交通を使いやすいと感じている市民の割合」

数値目標 及び KPI	指標の説明		単 位	現 状 (H26)	目 標 (H29)	目 標 (H31)	H28 実 績	H29 実 績	達 成 度 %	内 部 評 価	評 価 (案)
■ 基本目標 I 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造											
数値目標 1-1	年間婚姻数	一年間(4月～翌年3月)に南砺市で受付した婚姻届の件数	件	176	202	220	195	170	84%	D	婚姻届出数は、平成28年度より減少しておりD判定。 数値目標に繋がるKPIである「婚活イベントの参加者数」は順調に推移しているが、数値目標である「年間婚姻数」は目標値を達成していない。これは、結婚適齢期といえる20代～30代の人口の減少が男女とも大きいことと、25歳～39歳の世代で未婚率が高いことが主な要因と考えられる。 (改善点) 人口の減少については、20代の前の世代の人口も減っており、今後も減少は避けられない。社会減を食い止めることが重要である。未婚率の低下は、婚活事業のメインターゲットであり、平成29年度から取り組んでいる婚活地域サポート事業など、市全体の意識改革を行いながら、継続して推進していくことで未婚率の低下につなげたい。
KPI1	婚活イベント年間参加者数	市及び民間団体が実施する婚活イベント等への年間参加者数(4月～翌年3月)	人	441	900	1,100	780	790	88%	B	年度目標の9割近くを達成しておりB判定。毎年参加者数は伸びてきている。KPIに繋がる事業は順調に伸びてきているが、女性の参加者がなかなか集まらないという課題もみえており、マンネリ化を防ぐなど工夫することで、参加者の増加につなげたい。

数値目標 及び KPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28 実績	H29 実績	達成度 %	内部 評価	評価(案)
数値目標1-2	年間出生数	年間出生数(4月～翌年3月)	件	305	328	324	273	297	91%	C	<p>年度目標に達していないが、平成28年度より増えているためC判定。 目標に繋がるKPIのうち、仕事と育児の両立にかかるKPIの評価が低い。 (改善点) 平成30年度より市民病院内に「こども医療センター」を設置し、小児外科医療や病児保育など新たなサービスによる子育て環境の整備に取り組むこととしている。さらに、保健センター等と連携して、イクメン応援事業の実施や父親が家庭において家事や育児等に協力する意識の向上を図ることにより、家庭内で安心して子育てができる環境を整えることで、さらに出産に踏み切る方が増加することが期待される。</p>
KPI2-1	産み育てやすい子育て環境であると答えた市民の割合	(市民意識調査)南砺市の市政への満足度を問う設問の中の産み育てやすい子育て環境づくりの項目について、「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した人の合計を有効回答数で除した数	%	80.6	82.0	84.0	81.2	83.2	101%	A	<p>年度目標を上回っておりA判定。 年代別にみると、最も満足度が高いのは70歳以上、次いで高いのが20代。逆に最も低いのは回答数は少ないものの18歳-19歳が最小で、次いで低いのは50代となっている。 繋がる事業については順調に活用が増えており、そのことが20代や30代の満足度に繋がっていると考えられる。南砺で子育てを推進するために、制度を活用している世代で満足度が高いことを10代の方たちに知ってもらう事も必要。</p>
KPI2-2	就労しながら無理なく子育てできると答えた市民の割合	(市民意識調査:18歳未満のお子さんがある家庭)就労しながら無理なく子育てできると答えると思うと回答した数／有効回答数	%	58.5	65.0	70.0	63.5	62.1	96%	C	<p>平成28年度より低下しておりC判定。 最も満足度が高いのは50代、次いで65歳～69歳、70歳以上となっている。最も低いのは60歳～64歳で、子育ての中心となる20歳～49歳の世代が軒並み60%前後となっている。 (改善点) 「子育て応援制度」は平成29年度15社の認定を行っており、今後、認定企業の取組みを紹介することで、意識が広がることにつなげたい。</p>

数値目標 及び KPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28実績	H29実績	達成度 %	内部評価	評価(案)
数値目標1-3	健康寿命の延伸	健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間であり、年齢階級別の人口、5年間の死亡数、65歳以上の要介護認定者数等により算出する。 ※ 検証は、毎年公表される簡易生命表、住基台帳人口等により毎年算定することとしたい。	歳	男性 77.97歳 女性 82.97歳 (H22)	男性 78.75歳 女性 83.75歳	男女とも 1歳伸ばす	男性 79.49歳 女性 83.47歳	未確定	-	B	H28実績で、男性は平成31年度目標値を達成し、女性についても上昇しておりB判定。特定健診受診率・特定保健指導実施率は県下1位の高さであり、生活習慣病の発症・重症化予防の取組や健康意識の高揚により、女性についても目標値の達成に向けた取組を進める。
KPI3	地縁組織による介護事業所数	地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)のうち、多様なサービスのAとB及び一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業の週1回以上のサロンを実施する地縁組織等の事業所数の合計	事業所	0	14	31	8	17	121%	A	年度目標を上回っておりA判定。週1サロンが増加し、地域の介護予防に対する意識が向上した。今後は【戦略15】を推進することで、サービスBの普及を強化したい。
KPI4	がん検診受診率	以下の理由から、がん検診のうち、「肺がん検診受診率」を指標とする。 ①対象者が他のがん検診よりも多い ②10年生存確率ががん検診の中で最も低い ③市の受動喫煙防止対策の取組と関連する ※なお、今後対象者の高齢化が進むことによる未受診者の増加が想定されるため、目標値を南砺市民健康プランで設定している50%を確保することとしたい。	%	53.0	50	50.0以上	52.5	51.7	103%	B	年度目標を達成しているものの平成28年度と比べ低下しておりB判定。肺がん検診は、胸部レントゲン検査やヘリカルCT検査による短時間で苦痛のない検査方法を用いており、他のがん検診と比較しても受診しやすいことや、感染症予防としての検診であることを周知し受診につなげたい。

数値目標 及び KPI	指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28実績	H29実績	達成度 %	内部評価	評価(案)
■ 基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造										
数値目標2-1	若者、女性の就業率									
		%	-	74.0	75.0	73.6	74.4	101%	A	同じ計算方法を用いた場合の平成28年度の値より上昇しておりA判定。 女性では各年代の内、40代で最も高く、逆に最も低いのは60歳-64歳であるが、次いで低いのが30代となっており、結婚や出産を機に離職したか又は産休育休等で無給であると考えられる。
KPI7	若者、女性の就業者数	人	-	10,450	10,000	10,641	10,435	100%	A	平成28年度より減少しているが人口減少率より高いためA判定
数値目標2-2	新規起業(家)数	延件	15	66	100	84	104	158%	B	年度目標を上回っているものの、単年度起業数が平成28年度実績から大幅に減少しておりB判定。(H28:44件→H29:20件)
KPI9	新規雇用者数	人	3	61	100	26	32	52%	C	年度目標に達していないものの、平成28年度より増加しているためC判定。 有効求人倍率が高い水準で推移しており、企業としては雇用したいが、人が確保できない状況である。 (改善点) 「企業立地振興事業」により、企業の設備投資は活発になっているほか、昨年度途中よりHP「なんとジョブ」を開設したことから、今後掲載企業数の増や移住セミナー等でのPRを行うことで新規雇用の増加につなげたい。
KPI10	クリエイター移住者数	人	0	60	100	42	52	87%	B	年度目標の9割近くを達成しているものの単年度移住者数が平成28年度実績より大幅に減少しておりB判定。(H28:29人→H29:10人)

数値目標及びKPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28 実績	H29 実績	達成度 %	内部 評価	評価(案)
数値目標2-3	南砺市ブランド商品年間販売額	数値目標2-3-1,2-3-2の合計	億円	18.2	19.3	20.0	18.0	17.6	91%	A	厳しい生産販売環境であるが達成率90%以上のためA判定。 なお、平成30年度から新制度に移行しており、ブランド商品の魅力の更なる向上に取り組むことで販売額の向上を図る。
数値目標2-3-1	南砺市ブランド商品年間販売額	自治体特選ストア販売額及び伝統的工芸品販売額(市商工課より井波彫刻及び五箇山和紙の組合へ聴取)の合計額					6.8	6.5			
数値目標2-3-2	南砺市ブランド商品年間販売額	市内産物直売所・農産加工品販売額(砺波農林振興センター「普及指導計画書より)及びその他の主な農産加工品販売額(市農林課調査)を合計したもの					11.2	11.1			
KPI11	南砺ブランド商品登録品目数	なんとのおぼんまもん、自治体特選ストア、なんとのお土産、なんとのおまいもんに掲載、登録されている総品目数	品目	256	283	300	327	324	114%	A	最終年度目標を達成しておりA判定。 なお、平成30年度から新制度に移行しており、ブランド商品の登録品目数は数を絞り、南砺ブランドとして推すに相応しい上位の品のみ認定をする方針であり、数値目標の達成に当たっては【戦略45】による商品の磨きあげや販路拡大がより重要になる。
KPI11-1	南砺ブランド商品登録品目数	なんとのおぼんまもん、自治体特選ストア、なんとのお土産に掲載、登録されている総品目数					267	264			
KPI11-2	南砺ブランド商品登録品目数	なんとのおまいもんに掲載、登録されている総品目数					60	60			
KPI12-1	伝統的工芸職人数	井波彫刻協同組合及び五箇山和紙の組合に聴取した組合員及び和紙従業者数	人	137	137	137	137	132	96%	B	年度目標を9割をこえているものの、平成28年度より従事者数が減少しておりB判定。
KPI12-2	南砺ブランド商品(農産物)年間販売額	市内産物直売所・農産加工品販売額(砺波農林振興センター「普及指導計画書より)及びその他の主な農産加工品販売額(市農林課調査)を合計したもの	億円				11.2	11.1		A	厳しい生産販売環境であるが達成率90%以上のためA判定。 農業者の高齢化、天候不順により販売額は前年並

数値目標及びKPI	指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28 実績	H29 実績	達成度 %	内部 評価	評価(案)
■ 基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイル創造										
数値目標3-1	自治会町内会行事に参加している市民の割合	(市民意識調査)過去1年間に自治会町内会行事に参加したことがあると回答した数/有効回答数	%	78.2	80	80.0	75.7	74.5	93%	D 平成28年度より低下しておりD判定。50代以上では全ての年代で80%を超えているが、年代が低下していくごとに参加率は低下していく。 (改善点) 自治振興会単位で推進している小規模多機能自治の推進において、若者や女性の参加を積極的に行える組織のあり方等について検討して頂いており、自治会町内会においても、その展開により積極的に参加する若者の割合が増えることにつなげたい。
KPI13	コミュニティビジネス等に 取り組む自治会等の数	KPI13-1,13-2の合計	社	0	20	40	8	8	40%	D 平成28年度から増加がなく、停滞していることからD判定。 大きな要因として、平成31年4月から小規模多機能自治をスタートすることとし、全自治振興会へ説明会を行うなどした結果、組織作りに人や時間が多く必要になり、新たな活動を始める余力を結果として奪ってしまったことがある。 (改善点) 平成30年度は「統合型自治振興会強化プラン」を拡充しており、組織作りと同時に動き始められるよう、支援を進めていきたい。
KPI13-1	コミュニティビジネス等に 取り組む自治会等の数 (介護以外)	地域課題解決に住民協働で取り組む「総合型自治振興会」や「空き家再生等推進事業」といった地域活動や、コミュニティビジネスを実践する自治振興会、自治会、団体の合計数					3	3		
KPI13-2	コミュニティビジネス等に 取り組む自治会等の数 (介護予防・日常生活支援 総合事業)	地域課題解決に住民協働で取り組む「介護予防・日常生活支援総合事業」を実践する自治振興会、自治会、団体の合計数					5	5		

数値目標及びKPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28 実績	H29 実績	達成度 %	内部 評価	評価(案)
数値目標3-2-1	地域資源の利活用 (熱量)	ペレットストーブ設置補助金により設置された台数に対し、ストーブ1台当たり1t(17GJ)の熱消費量を乗じて算出した熱量の合計	GJ	595.0	1,258	1,700.0	1071	1,326	105%	A	年度目標を上回っておりA判定。 平成29年度は15件助成しており、ペレットストーブの普及に効果が出ている。 今年度、市内でのペレット生産が始まることにより、地域資源の循環が更に進むと考えられる。
数値目標3-2-2	地域資源の利活用 (地場産食材)	(市民意識調査)地場産食材を意識して購入している市民の割合	%	37.4	40.0	40.0	36.6	33.1	83%	D	平成28年度より低下しておりD判定。 この指標は「地場産食材を意識して購入している市民の割合」であり、女性に限定すると44.5%の方が「意識して購入する」と回答している。また、年齢別では10代、20代で低く、70代以上で高い。 (改善点) 地場産品を販売している農産物直売所の販売体制について見直しを行うなど、市民が地場産品を購入しやすい場所やしくみづくりを働きかけていく。また、地場産食材を扱う飲食店が増えることで、意識の向上に繋がることが期待される。
KPI14	木質ペレット利用量	南砺市の公共施設における1年間のペレット利用量	t	80	404	620	422	1,063	263%	A	年度目標を達成しておりA判定。 公共施設6箇所のペレットボイラーの稼働率を上げ利用量を増やすとともに、公共施設のペレットストーブを整備し利用量を増やしていく。
KPI15	小中学校給食における地元産品使用率	富山県農産食品課調査「元気とふれあい学校給食づくり事業」への報告値(4月～翌年3月)	%	29.5	32.5	35.0	27.98	30.7	94%	C	年度目標に届いていないが、平成28年度より伸びているためC判定。 平成29年度中は、天候不順による野菜等の不作もあり伸びが鈍くなった。 (改善点) 学校側の需要と、生産者側の供給のタイミングを合せることにより増加に努めていきたい。

数値目標 及び KPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28実績	H29実績	達成度 %	内部評価	評価(案)
KPI16	間伐面積	森林組合の単年度の間伐実施面積	ha	205	233	260	163	166	71%	D	平成29年度中に指標を見直したばかりであり、事業の効果を判断できる段階に無いためD判定。 実績値としては総合戦略の開始時よりも減少しており、その要因には森林組合におけるマンパワー及び財源の不足がある。 (改善点) 担い手不足の解消につながる【戦略67】「森の学校」の創設に取り組むが、効果が出るまでにはまだ時間が必要である。今後は、森林環境譲与税の財源を活用して、担い手の育成を進めるとともに、間伐材を薪などのエネルギーとして活用する仕組みを進めることで指標の改善につなげたい。
数値目標3-3	縮減公共施設の有効活用面積	公共施設等総合管理計画に基づき譲渡した公共施設のうち、民間活用された施設面積の合計	m ²	—	15,000	39,000	0	2,358	16%	C	年度目標に達していないが、平成28年度より伸びているためC判定。 目標達成には、譲渡価格や改修に係る費用、解体費用の負担が課題と考えられる。 (改善点) これまでの譲渡交渉により再編は進捗しているが、民間活用に向けた譲渡は少ないことから、再編推進施策の拡充や制度化によって民間事業者の提案しやすい環境を整備することで、民間への譲渡を進めていきたい。
KPI18	譲渡募集に係る応募数	民間でも活用可能な施設を対象に、公募・利活用提案を募集し、応募された者の数	者	—	25	75	0	4	16%	C	年度目標に達していないが、平成28年度より伸びているためC判定。 目標達成には、譲渡価格や改修に係る費用、解体費用の負担が課題と考えられる。 (改善点) 今年度、民間事業者等を対象としたバスツアーを実施したところ、2件の応募に繋がった。今後も実際に施設の状況を確認いただける場を設けていきたい。あわせて、譲渡価格の減価や改修や解体の支援策を拡充、制度化することで民間事業者から応募しやすい環境を整備したい。

数値目標及びKPI	指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28 実績	H29 実績	達成度 %	内部 評価	評価(案)	
■ 基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造											
数値目標4-1-1	年間転入者数		年間転入者数(4月～翌年3月) ※達成度の算出にあたっては、H26からの減少分(29人)を、H26からの増加目標(29人)で割ることで算出している。なお、実績値が現状値から見て負の値となっているため、達成度も負の数字になる。	人	1,012	1,041	1,060	1074	983	-100%	D 平成28年度より減少しておりD判定。転入奨励金等交付対象世帯は増えているが、近隣(砺波、小矢部)からの移住は減少傾向にある。また、平成28年度に比べると0歳～10歳の転入が減少していることから、子育て世代の転入が平成28年度に比べ少なかったものと考えている。 (改善点) 市内へのUターンや転入奨励制度及び市内での生活を応援する制度のチラシ(南砺へ帰ろう)を市内全戸に配布し、市内の親世代から市外転出者への周知を図り、子育て環境を併せてアピールすることで、子育て世代の転入につなげたい。また、「移住コンシェルジュ事業」を拡充し南砺市単独で移住セミナーを実施することで、引き続き、首都圏からの転入者の拡大に努めたい。
KPI19	転入奨励金の年間交付件数		定住奨励金制度「南砺で住んでみんないけ事業」の内の、転入奨励金の補助件数(4月～翌年3月)	件	20	26	30	34	32	123%	A 年度目標を達成しておりA判定。KPIに繋がる事業は周知されてきており、一定の実績値で推移している。ただし上位の数値目標が伸び悩んでおり、今後は移住希望者のほか、南砺市民に向けても周知し、Uターン等のきっかけとなるよう働きかけを行う。

数値目標 及び KPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28 実績	H29 実績	達成度 %	内部 評価	評価(案)
数値目標4-1-2	年間転出者数	年間転出者数(4月～翌年3月) ※達成度の算出にあたっては、H26からの減少分(3人)を、H26からの減少目標(25人)で割ることで算出している。	人	1,242	1,217	1,200	1288	1,239	12%	C	年度目標へは届かないものの、平成28年度より改善し、H26年度の実績(基準値)よりも減少しているためC判定。 男性の30～34歳や女性の25～29歳などで大きく改善した。しかし女性の20～24歳では転出が増えており、職業上の理由から三大都市圏へ出る傾向がみられる。 (改善点) 市民意識調査では、南砺市に住み続ける事に対し若い世代で「わからない」という回答が多いことから、将来の南砺市に携わる意識を高める方策や、転出者の動向を調査することなどによって抑制につなげたい。
KPI20-1	住み続けたいと思う市民の割合	(市民意識調査)今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うと回答した数/有効回答数	%	72.3	76.9	80.0	70.8	68.0	88%	D	平成28年度より下がっておりD判定。 60歳以上の数値は高く、年度の目標値を超えているのは65～69歳のみとなっている。30代～50代ではどれも65%前後で推移し、18～20代では低くなっている。理由としては、どこかへ引っ越したいというよりは、「わからない」の回答が多い。 (改善点) この指標は、総合的な指標であり、子育て施策やふるさと教育を今後とも推進することや、将来の姿をイメージできていない若者の意識を高めることで、南砺市に住みたいと考える若い世代を増やす取組みが必要と考えている。
KPI20-2	南砺市に「誇り」や「愛着」を感じている市民の割合	(市民意識調査)南砺市への「誇り」や「愛着」を感じていると回答した数/有効回答数	%	68.1	70	71	69.3	65	92%	D	平成28年度より下がっておりD判定。 20代以下では高く、30代40代と60代前半ではやや低い。 若い年代で割合が高いことから、学校におけるふるさと教育に一定の効果があると考えられる。 一方で、市民意識調査の結果から、30代では「忙しい」という理由から学習活動やスポーツ・運動、文化的活動の頻度が減少する傾向がみられる。 (改善点) この指標は、総合的な指標であることから、働き方改革等、様々な取組みの成果により目標が達成するものと考えている。

数値目標 及び KPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28実績	H29実績	達成度 %	内部評価	評価(案)
KPI20-3	公共交通をしやすいと感じている市民の割合	(市民意識調査)JR城端線、民営バス、市営バス、タクシーをしやすいと感じると回答した数/回答数から無回答を除いた数	%	35.2	38	40.0	35.9	30.9	81%	D	平成28年度より下がっておりD判定。 交通機関ごとに見るとタクシーの20.7%～民営バスの7.5%となる。ただし、「(この1年間に)良く利用する」とした人においては、使いやすいと感じる人が84.8%～40.6%となることから、一定の効果があると考えられる。 (改善点) より使いやすい公共交通を目指すことに加え、市営バスのシルバーパスの周知など、普段利用していない人に公共交通を利用してもらうような取組が必要と考えている。
数値目標4-2	貢献市民の人数	市外に住みながらも、南砺市を心に想い、集い、実践される方。第2住民登録をされた人数の合計	人	0	500	800	70	453	91%	A	ほぼ目標数値を達成しておりA判定。 平成30年度以降も国の関係人口創出モデル事業を活用しながら、目標値の達成に努める。
KPI21-1	観光客入り込み数	市の調査として観光協会支部単位ごとに調査している観光客入り込み数の合計	万人	325.6	356.0	370.0	352.2	345.5	97.1%	C	前年度より減少しておりC判定。 日本人観光客の減少は、人口減少と、近年の旅行形態の変化が大きな要因である。ただしインバウンドは年々増加しており、特に香港や、アメリカ、フランスからの宿泊者数は大きく増えている。 (改善点) KPIに繋がる事業は概ね順調に進んでおり、今後は、首都圏の東京だけでなく、新幹線のハブ駅がある埼玉県大宮を中心とした事業展開により、南砺市に対する認知度の向上とともに、北陸新幹線を利用した誘客に努めていく。 加えてインバウンドでは、世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」、日本遺産「井波」、ユネスコ無形文化遺産登録の「城端」の3エリアの周遊コースの造成等の取組みや、SNS(フェイスブック等)での英語による南砺市の魅力を発信することで、更なる誘客、宿泊客を増やし、市内での消費UPに努める。

数値目標 及び KPI		指標の説明	単位	現状 (H26)	目標 (H29)	目標 (H31)	H28実績	H29実績	達成度 %	内部評価	評価(案)
KPI21-2	観光客の満足度	市観光客動態調査により、各指標を設定し、南砺市に対する満足度を算出	%	86	87	89	89	86.7	100%	B	平成28年度より減少したものの年度目標は達成しておりB判定。 平成24年度に策定した「交流観光まちづくりプラン」を平成29年度に見直し、目標を定めている。 宿泊事業者等における接客・宿泊・食に対する満足度は高いが、公共交通機関・情報発信・お土産に対する満足度が低い。 公共交通機関については新規事業として【戦略97】なんチャリ事業を開始することで周遊性を補完したい。また、お土産についても【戦略45】南砺ブランド商品開発支援との連携により、満足度の向上につなげたい。
KPI22	ふるさと寄附をした人数	ふるさと寄附をした人数	件	65	500	650	529	462	92%	B	平成28年度より減少したものの、年度目標の9割を達成しておりB判定。 平成29年度当初の総務省通達(返礼品は寄附金の3割とする)もあり、寄附件数の減少は全国的な傾向である。 貢献市民は増えており、応援活動として「ふるさと寄附」に取り組んで頂ける方をさらに増やしたい。
数値目標4-3	提携大学数	南砺市と官学連携事業を共同で実施する提携を結んだ大学数の合計	大学	1	4	6	5	6	150%	A	最終目標を達成しておりA判定。 平成29年度中に富山県立大学と包括連携協定を締結した。内訳は県内3大学、金沢市内2大学、北海道1大学。 目標に繋がるKPIも好調であり、今後は、平成28年度実績の評価でも指摘のあった市民への周知に取り組むなど、既に実施した提携をより深化させていきたい。
KPI24	官学・官民連携の手法を活用した事業実施数	南砺市が官学連携、官民連携の手法を活用して実施した事業数の合計 ※南砺サテライトやセミナーハウスなど1年間を通して活動を行うような事業については1件としてカウント	件	1	6	10	12	11	183%	A	年度目標を達成しておりA判定。 平成29年度は特に富山県立大学の地域協働授業による取り組みが活発で、南砺谷地域や井波商店街の取り組みは新聞等でも取り上げていただいた。 平成28年度実績の評価でも市民に知られていないとの指摘を受けており、これまでの事例紹介などを行いながら、更なる連携事業の推進を図りたい。